沿革

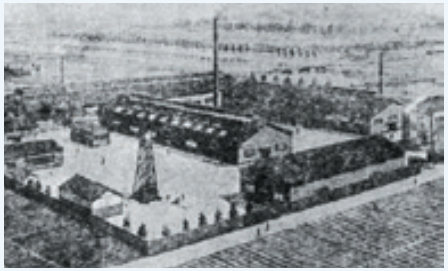
1919年創立

日工グループの歩みと価値創造の歴史

日工グループは、1919年に鈴木商店関係者らによるショベルなどの建設用金物類の販売から始まり、2026年で創立107年を迎えます。

中期経営計画（2025-2027年度）の1年目である2025年度は順調なスタートとなりました。

2030年ビジョンで掲げる目標売上高700億円、営業利益率10.0%、ROE10.0%の達成に向けて、企業価値及び株主価値の最大化を目指す施策を着実に実行します。



創立当時の本社工場（1920年代）



江井島工場（1950年代）

1990年～

多角化の推進とグループ経営の強化

1991年 ● 開発技術センターを新設
1994年 ● 幸手工場が完成
2000年 ● 海外事業部を発足
2001年 ● 日工（上海）工程機械有限公司を設立
2002年 ● （株）新潟鐵工所からアスファルトプラント部門を譲受
2004年 ● 初の海外生産拠点 日工（上海）工程機械有限公司嘉定工場が竣工
2006年 ● NIKKO (THAILAND) CO., LTD.設立
2006年 ● 三菱重工業株式会社下関造船所からコンクリートポンプ事業を譲受
2008年 ● 株式会社前川工業所をグループ会社化

海外環境：環境に優しい製品ニーズが拡大

1994年 ● 関西国際空港が開港
1995年 ● 阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件
1997年 ● 京都議定書採択
2006年 ● 神戸空港、北九州空港開港
2008年 ● リーマン・ショック



日工上海

2010年～

攻めの経営へ転換

2011年 ● 山推楚天工程機械有限公司武漢新工場が完成
2012年 ● 西川貴久が代表取締役社長に就任
2012年 ● NIKKO (THAILAND) CO., LTD.解散
2015年 ● ドイツ・KLEEMANN社の日本総代理店として活動開始
2015年 ● 山推楚天工程機械有限公司から撤退
2018年 ● テクノセンター（明石）を新設
2018年 ● モバイルプラント事業部新設（現・破砕機関連事業）
2019年 ● 辻勝が代表取締役社長に就任
2019年 ● 創立100周年

外部環境：各種災害が甚大化

2010年 ● 中国・上海万博開催
2011年 ● 東日本大震災
2012年 ● 東京スカイツリー開業
2015年 ● 北陸新幹線（東京～金沢）開業
2015年 ● SDGs国連採択



CSC（カスタマーサポートセンター）

2020年～

新中期経営計画と2030年ビジョンの実現に向けて

2020年 ● Nikko Asia (Thailand) Co., Ltd.設立
2020年 ● Nikko Nilkhosol Co., Ltd.設立
現：Nikko Asia-Engineering (Thailand) Co., Ltd.（略称：NAT）
2022年 ● 宇部興機株式会社をグループ会社化
2023年 ● 株式会社松田機工をグループ会社化
2024年 ● 株式会社西日本不動産をグループ会社化
2025年 ● 中山知巳が代表取締役社長に就任
2025年 ● 新中期経営計画・2030年ビジョン発表
2025年 ● 株式会社藤原電機製作所をグループ会社化（現：日工藤原電機株式会社）
2026年 ● Nikko Asia (Thailand) Co., Ltd.のタイにおける事業をNikko Asia-Engineering (Thailand) Co., Ltd.に譲渡

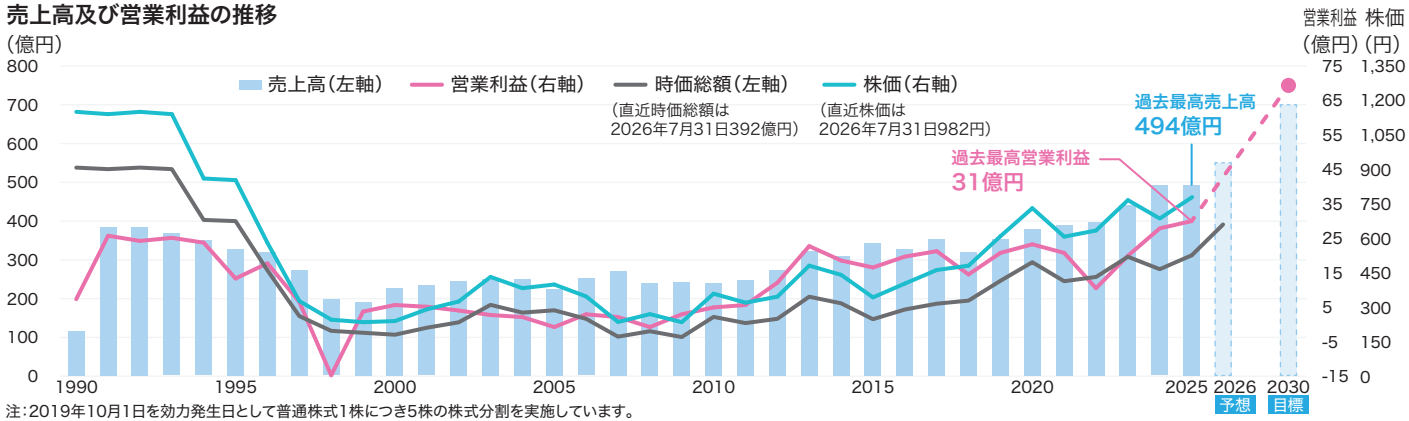
外部環境：ポストコロナ時代

2020年 ● 新型コロナウイルスがまん延
2021年 ● 東京オリンピック開催
2022年 ● ロシアがウクライナへ侵攻
2023年 ● 新型コロナウイルスが5類へ移行
2025年 ● 米国の関税政策



NAT

売上高及び営業利益の推移



注：2019年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を実施しています。